

---

---

## 来賓挨拶

ファイザー株式会社 代表取締役社長

梅田 一郎

---

---

出捐企業を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

最初に、本日のフォーラム開催にあたり、研究成果を発表いただく皆様、各セッションの座長の労をお取りいただいている選考委員の先生方、このあと記念講演をいただく永井先生、そしてご参加いただいたすべての皆様に、心より感謝の意を表したいと思えます。

また、先ほど大臣からのご祝辞を三浦技術総括審議官より頂戴いたしました。今年度もヘルスリサーチフォーラム及び研究助成金贈呈式に厚生労働省のご後援をいただきました。同じく玉川研究主幹よりご挨拶を頂戴いたしました。医療経済研究機構のご協賛もいただきました。出捐企業としても大変感謝いたしております。

そしてまた、大変高い競争倍率の中、本年度の研究助成を受賞された皆様には心よりお祝い申し上げますとともに、2年後のフォーラムで研究成果のご発表をお聞きできることを、大変楽しみにしております。

ファイザーヘルスリサーチフォーラムは、1994年11月に第1回が開催され、今回で第20回を迎えることができました。財団設立以来、大変ご尽力いただいた故 開原 成充 先生は「バイオメディカルリサーチとヘルスリサーチは車の両輪で、この2つがそろって初めて医学の成果が本当の意味で社会に還元される。つまり、医学の成果をどうすれば本当に必要な人のところに届けることができるか、それがまさにヘルスリサーチである」と言われ、その反面、「ヘルスリサーチは実は日本では非常に弱かった分野で、この分野に関心をはらう組織は、以前はほとんど無かった」とおっしゃられました。「そうした観点から、今後ますます複雑化する世の中においてヘルスリサーチの重要性が高まってくる中で、ファイザーヘルスリサーチ振興財団の事業は先駆的な役割を果たすであろう。いや、果たすべきである」ともおっしゃっておられました。

このヘルスリサーチという言葉自体のご理解が、研究助成を受けられる方の中でもまだ十分でないところがあった第1回のフォーラム開催当初に比べますと、この20回に亘るフォーラムを通じた研究成果のご発表の積み重ねで、現在ではかなりヘルスリサーチの概念が定着し、まさしく今回のテーマである「良い社会に向けて」さらなる発展を期待できるものになってきたと考えております。

これもひとえにご指導いただけてきた歴代役員・選考委員の先生方、また様々な分野でヘルスリサーチに取り組んでおられる研究者の皆様のご尽力のお陰と、大変ありがたく思っております。

改めて感謝の意を表したいと思えます。

次に私から、ファイザーの近況や会社を取り巻く環境について、少しご報告させていただきます。

医薬品業界では、ブロックバスター時代が終焉を迎えつつあると言われております。弊社でも大型製品が順次特許切れとなり、昨年は全世界で15%、今年も7%程度売上が減少しております。日本においては、何とか売上を落とすことなくギリギリのところまで頑張っておりますけれども、世界的に経費節減に取り組んでおり、日本の社員も日々大きなプレッシャーの中で業務を行っております。

アベノミクスにより経済に明るい兆しがやや見られており、医療や医薬品も成長戦略の一つの柱であると期待されております。けれども一方で、医薬品の市場は医療費という別の側面もあり、現在もちょうど来年4月の診療報酬改定、薬価改定に向けて中医協で厳しい議論が行われているところです。

さて、ファイザー株式会社のビジョンは「日本で最も信頼され、最も価値あるヘルスケア企業になる」ということですが、このビジョン達成のためには、今申し上げたような厳しいビジネス環境にあっても業績改善の努力を積み重ねていくことと共に、社会貢献事業も非常に重要であると考えております。

ファイザーでは、患者会などヘルスケア関連団体へのサポート、市民活動団体への助成プログラム、また社員によるボランティア活動の助成、疾患啓発活動など、様々な活動を実施しております。その中で、研究助成を始めとするこの財団の事業活動に対する出捐は、ファイザーにとっての社会貢献活動の原点とも言えるものとなっております。

財団活動の支援を始め様々なプログラムを通じて、継続的な社会貢献を今後も実施していきたいと考えております。

最後に、本日参加されたすべての皆様の益々のご健勝とご研究のさらなる発展を心より祈念して、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

受賞者の皆様には、誠におめでとうございました。